



直会旅行、つむぎ会館にて



マージナル方面遺族会  
(旧クェゼリン方面戦没者遺族会)  
郵便番号 154  
世田谷区野沢 3-11-3  
電話 東京 (424) 4300  
振替口座東京 0-93487 番  
編集兼発行人 浮田信家

員数役員の一ひとりごと 土岐 達雄

昭和十七年も終ろうとしていた十二月のある日、兄は一振りの軍刀と僅かばかりの身の廻り品を持って、東京駅から任地マージナルに向うべく、出港地大牟田に向けて征った。見送った父と私に「一年か一年半で多分内地に転勤になるからね。」と言ひ残して……………。

当時緒戦での大勝利に酔っていた我々は、之を信じて疑わなかった。帝国海軍に精強なる八・八艦隊、として大和、武蔵あり、いわんや、一大要塞トラック島を間近かに控えた内南洋、何となく羨ましくさえあった。任地クェゼリン到着後、兄からは内南洋群島の模様を良い面ばかり知らせさせて寄こし、その感を一層深くした。

然るに年が変って間もなく、新聞紙上に折に触れクェゼリン島爆撃さる、の報が見られる様になり、その報は月の重なる毎に増して来た。マキン、タラワは既に敵手に落ち、之は大変な事になって来たぞと思つていた矢先、敵クェゼリン上陸、程なくして全員戦死の新聞報道、遂に来るべきものが来たと言ひ感じだつた(後日、自宅で整理を行つた際、遺書が見つかり、やはり海軍軍人として秘かに覚悟していたのでしよう)。ガダル、マキン、クェゼリンそしてその後は一方的に近い形で敗れ続け、遂に運命の八月十五日が来た。

終戦の日から長く続いた耐乏生活、暗い毎日、敗戦国の惨めさをいやと言う程味わされた。そんな敗戦国日本も数年の後、極めて徐々にとは言え食糧、生活物資の出廻り等で明るさを取り戻し、街にも映画、音楽会等僅かながら娯楽が見られる様になった。東京の中心街も着々と復興し、殺伐たる人の心も一応平静さを取り戻したある日、自宅の郵便受に一通の郵便物が投げ込まれた。「環礎」、聞いた事も無いものだった。そして、内容はマージナル群島の遺族会、との事だった。当時、一種の流行り物の様にあちらこちらで遺族会とか、その機関紙とか言うものを見聞きしていた私は、之もその類で、何れ二、三年で泡の様に消えるのだから。売名行為が利権が目的か等と、余り関心を持たなかつたのが正直なところだった。その後、十年程経つたとき、私の会に対する見方が大きく変わった。年二回送られて来る「環礎」を読み返し

〔三頁へつづく〕

目次

- 員数役員の一ひとりごと…………… 土岐 達雄(1)
- ……… 幹事 土岐 達雄(1)
- ブラウン環礁に日本政府の遺骨収集団派遣と募集…………… 浮田 信家(2)
- 政府主催による慰霊巡拝の参加者募集…………… 事務局(3)
- 本年度本会の第三回現地募参について…………… 事務局(3)
- 昭和53年2月6日前後の行事報告…………… 佐藤 宗丕(4)
- 昭和52年度決算報告…………… (5)
- 昭和53年度予算…………… (5)
- 来 信 紹 介…………… 大里御夫妻(5)
- …………… 山下みつ様(5)
- 寄附者芳名…………… (6)
- 事務局だより…………… (8)
- 戦記シリーズ…………… (23-30)



# ブラウン環礁に

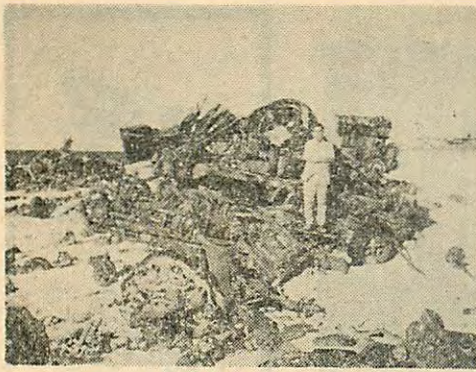
## 日本政府の遺骨収集派遣と読者への願い

会長 浮田信家

昨年12月31日朝、岡山県の高田源次郎氏から電話があった。

「今朝7時NHKニュースでブラウン環礁の遺骨収集が近く日本政府の手で行われるとの報道、会長はこれを聞かれたかどうか」の問い合せであった。

正に青天の霹靂、我耳を疑った。更に「同島は玉砕の発表もなく又戦後同胞の誰一人訪れたものもなく、気になつていましたが、このニュースで御遺族のお喜び如何ばかりかと思いましたが。御遺族が満足下さるような遺骨収集が一日も早く行われますよう祈りませす。私は地方に住み、何一つ出来ませ



島内に兵器残骸の山

んが、何かお役に立つ事がありましたら馳せ参じます」との事であった。クエリン、ミサイル基地と切つても切れないブラウン環礁の遺骨収集など想像もできない私であった。NHKに問い合せても所詮更に厚生省に問い合せを要するし厚生省は歳末の休暇で、五日にならなくては仕事が始まらない。本会創立以来この環礁の御遺族には誠に申訳けない気持ちで過して来た私ではあったが五日まで待つことにした。

五日朝を待ちかねて横溝業務二課長に電話で尋ねた。横溝さんは早速調べて下さって「ニュース通り、同環礁は昨年初め基地撤収にきまり、11月には既に撤収が完了し、疎開中の島民の復帰も始まった由なので厚生省は同環礁の遺骨収集を米国に申入れ、米国の了解を申請中であり、実施の見通しがついた。詳しくは担当の庶務課に聞きたい」とのことであった。

2月1日厚生省を訪れた。横溝課長は昭和46年本会の篤志会員をおうけ下さつて以来ご多忙の中を本会のため指導鞭撻下さつて居るが、当日も早速吉江庶務課長にお引合せ下さり、仔細は村瀬同課長補佐から大晦日のNHKのニュース放送の経緯をお聞きした。

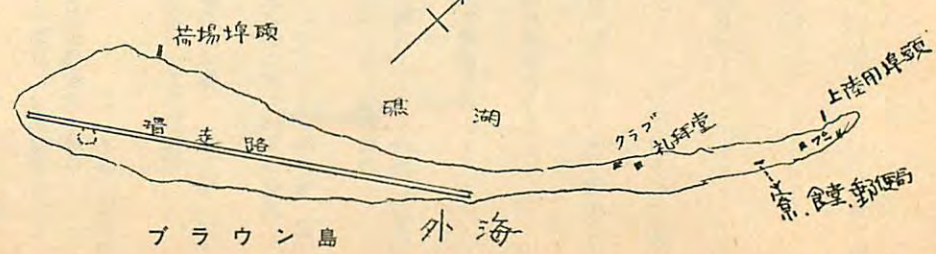
それに因るとブラウン島の撤収は既に昨年当初決定され、構築物等の撤収工事につき日米商社の入札が行われたが結局米商社に落札し、その工事は、昨年11月完了したとのことである。ここに掲載の地図や写真は入札にいった商社々員がその際撮影したものを庶務課が受領し本会に渡されたものである。お話を総合すると、このエニウエトク島での戦死者はまとめて同島滑走路の西端附近点線で囲んだ円形附近らしいが他のエンチャビ島、アオモン島、メリレン島のことは資料なく今後早急に調査を要する。守備兵力はエンチャビ島一、二三〇名、アオモン島不明、メリレン島一、四四四名、ブラウン島七五七名計三、四三一名余となっている。

その後4月28日村瀬課長補佐を訪ねたところ遺骨収集につき米側の了解を得たので今秋左記によって民間協力者を加え約20名の人員で実施するよう準備をすすめて下さっている。

一、実施予定期日 昭和53年9月中旬  
二、参加予定人員 20人  
この外承知していただきたい事は

一、行動の構想  
東京→マジュロ間 飛行機  
マジュロ→ブラウン間 船舶  
二、経費  
昭和48年私が参加した時は民間協力者には所要経費の3相当地額を国が負担

担すは自己負担。  
3資格 特  
に規定はないが、酷暑の島での作業故健康な復員者或は遺児或は兄弟の男子。  
ということをお含みの上各都道府県及び本会を通じ早目にお申込み下さい。  
私と高田源次郎氏は申込みました。  
最後にお願いですが、ブラウン環礁からは帰還者なく、又その後米軍が使用のため遺骨収集上の資料が殆どありません。厚生省でも鋭意調査中ですが手がかかりになるような資料おもちの方は、厚生省援護局庶務課又は本会本部にお寄せ下さいますようお願いいたします。



昭和48年私が参加した時は民間協力者には所要経費の3相当地額を国が負担



## 政府主催による慰霊巡拝行事参加希望者募集

政府は昨52年度から旧主要戦域となつた地上及び遺骨収集の望めない海上における戦死者を対象として、戦跡慰霊巡拝を実施することとなり、その第一回は、昨年3月フィリッピン地域慰霊巡拝団が派遣され、つづいて北ボルネオ、東部ニューギニア地域にも派遣され、それぞれ参加者の満足を得た。

本年はこの行事の第二回目として

- 1 インド 12月上旬 20人
  - 2 中部太平洋 10月中旬 94名
  - 3 アリューシャン 7月中旬 50名
  - 4 インドネシア 9月中旬 20名
  - 5 沖 縄 11月中旬 47名
- と予定された。
- 慰霊巡拝参加希望者の遺族の選び方は各都道府県の民生主管課（援護、福祉、厚生課など）が窓口となっているのでまず都道府県遺族会に申しでることになっている。2の中部太平洋の場

### 本年度本会の第三回現地墓参について

#### 事務局

環礁28号で募集した第三回現地墓参希望者は43名となり、現地基地司令部の墓参許可も済み、旅行幹旋業者も決めました。前二回は、日本交通公社の大きな協力と、優秀な添乗員の誘導によって、事情のわからない特殊地域の

現地墓参を美事に実施出来ました。この地域に案内できる幹旋業者が一社だけでは大局的に見て心細いので今回は近畿日本ツーリストに頼み、同社もまた献身的に準備に当たっています。今回の行動予定は

合この外お知らせしたいのは  
1 行動の構想

マージナル組とギルバート組の二組となるであろうがその他未定。大体8日間前後

2 経費 所要経費の概相当額は国が負担、自己負担

3 その他 政府主催の慰霊巡拝で、中部太平洋関係が今後再びあるかどうか全く判らないので参加したい者は、前記都道府県遺族会へ申し出るとき、本会本部にもお申込下さい。その方には今後慰霊巡拝について情報があり次第おしらせします。本会が現地墓参の希望者を募集する毎に申し上げていることですが途中で取止めるのは結構ですが、希望者は今すぐ（遅くとも今月中）本部にお申出下さい。

8月28日午後靖国神社参拝後東京空港

(成田)に移り説明会、結団式、泊

8月29日午前9時45分東京空港発、午

後11時17分マジユロ空港着、泊

8月30日、31日マジユロ滞在。二泊。

同環礁内見物。現地飛行機の都合つ

けばミレ、ヤルト、マロエラツプ

環礁等希望者による戦跡弔訪。

9月1日午前11時54分マジユロ発、

12時36分クエゼリン島着(クエゼリ

ン時間は8月31日)、墓参、約一時

間後クエゼリン発、5時30分頃サイ

パン空港着 泊

9月2日(土)サイパン島戦跡弔訪、

午後5時30分サイパン空港発、7時

45分東京空港着、解散

(1ページよりつづく・巻頭言)  
たからである。その中に込められてい  
る会長以下役員、真に、会の為、遺  
族の為にと言う純な気持ちに心を打たれ  
た。

昭和五十一年二月五日、毎年行なわ  
れている慰霊祭の前夜祭に、意を決し  
て家族共々出席した。浮田会長、佐藤  
副会長等役員の方々、大勢の遺族の方  
々にお目に掛かり、出席して良かった  
と心から感じた。ところがその翌日、  
総会の席で突然会長から幹事をやる様  
御指名を受け、大いに困惑し、受ける  
べきか断わるべきかと迷った。然し、

その頃既に会長の高邁な人格に傾倒し  
ていた私は、お断りするよりお受けし  
ようとすゝめ気持の方が大きく、末席に  
名を連ねる事になった。

最初の役員会の招集があった。費用  
節約の為浮田会長宅で行なう由、早速  
地図を頼りに伺った。会長、奥様を始  
め十数名の役員が十畳程の部屋で、そ  
れこそ額を集めて会の在り方、会計報  
告等熱心に討議された。そば屋の天井  
とお茶、煎餅、それだけで三〜四時間  
に及ぶ長時間の会議が続けられた。そ  
して夜も十時を過ぎた頃解散となっ  
た。その時、だれ言うともなく「夕食  
代は？」さも当然の如く全員から夕食  
代が集められた。その時は本当にこの  
会の真髓を知らされた思いがした。色  
々な会の役員会等に出席した際、その  
夕食代を徴集されたのは初めての経験  
だった。私は、之ぞこの会が二十年余り  
の長い歴史を歩み続けて来た「ルー  
ツ」であると知った。会長以下全員  
が、全く私を滅して会の発展の為手弁  
当で努力する姿を眼のあたりにして頭  
が下がった。

会長、副会長以下まだまだ御元気で  
す。之からも一層御活躍下さるでしょ  
う。又、そう念じてやみません。会員  
の皆さん、之等の努力に添えて、お  
盆、二月五日、六日の前夜祭、昇殿参  
拝には一人でも多く参集し、会長以下  
と直接肌を接して話し合い、慰め合お  
うではありませんか。



# 昭和53年2月6日前後の行事報告

## 事務局

2月6日早朝青森から秋田から、そして福岡からもなつかしい顔顔。一年一度ながら毎年お会いしているうちに、遠くからきた親戚に会っているような気分になる。参加者190名。

午前10時、手水に身と心を浄めて肅然と拝殿に参入し、修祓、祝詞奏上の後本殿に昇り端坐瞑目。思いは遠く三、四、会務計画(浮田会長)十余年の昔、お元気で、とお別れした日の姿が、声が……。

一、会務報告(浮田会長)  
 二、決算報告(井上常任幹事) 別項  
 三、監査報告(末広監事)  
 四、会務計画(浮田会長)  
 五、予算案(井上常任幹事) 別項

以上の報告と提案を夫々承認又は可

回数	年	コ	ス	な	ど	宿
9	53	霞ヶ浦、雄翔館、子科練の碑、筑波神社 結城・つむぎ会館、益子・塚本製陶	伊豆半島、伊豆スカイライン、修善寺 指月殿、頼家の墓	修善寺 水月ホテル		筑波山 戸屋
8	52	甲州、恵林寺、昇仙峡、武田神社 山梨宝石会館、マンスワイン工場	房総半島、フラワーセンター、仁右衛門島 小湊誕生寺、鯛ノ浦、行川アイランド	城ヶ島 温泉ホテル		石和 ホテル八田
7	51	下田、了仙寺、石廊崎、マーガレットライン 洋蘭センター、松崎、堂ヶ島、船原峠	熱海梅園、十国峠、箱根関所跡 箱根神社、大涌谷、自然科学館	伊東 香園		下田 グランドホテル
6	50	日光東照宮、陽明門、二荒山神社 輪玉寺、日光廟大猷院	小田原城、大雄山最乗寺(道了尊) 二宮神社	箱根湯本 水苑		川治温泉 柏屋ホテル
5	49					
4	48					
3	47					
2	46					
1	45					

決して議事を終了。  
 浮田会長から来賓の紹介があつて午前の行事を終えた。

### 現地慰霊報告会

午後一時から三時迄、九段会館21号室で行われた。参加者24名。  
 ナウル島、ギルバート諸島で団員が撮映した8%と現地で集録したテープを使って佐藤副会長から報告。

タラワ島で発見された国籍不明の数十体の遺骨の写真は、同島の遺族にとって大変な衝撃であつた。思わず合掌する者、むせび泣く者もあつた。その遺骨は今、南十字星の下で大ぜいの仲間達と共に安らかに眠りのことでしょう。(環礁28号3頁)

### 直会旅行会

正午、昼食弁当飲みもの果物等を積み込んだバスは、靖国神社境内から首都高速、水戸街道を一路霞ヶ浦航空隊跡へ向つた。運転手もガイド嬢もこのコースは始めてのことと、浮田会長が道案内と現場説明をすることになった。会長は、第一期海軍飛行子科練習生の教官兼隊長をしていた上、戦後この地に雄翔館(子科練記念館)や子科練の碑を建設するときお骨折りされたので、詳しいお話を伺うことができたのは幸せであつた。高松宮喜久子妃殿下の歌碑は次の通りに拝された。

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行  
 子科練習生を偲びてよめる  
 海はらに はた大空に 散華せし

君ら声なく いく春やへし  
 筑波山の江戸屋には豪華な天狗鍋が用意されていた。身内同志のなごやかな直会となり、舞台の上でうら若い女性の「ガマの油売りの口上」熱演に拍手喝采。宴終る頃、大広間を使わせて頂いて、昨年の現地慰霊団の8%を見る。参加した人はあの日を思い出して感一入であつた。

2月7日、朝食前に筑波山神社にお詣りをする。  
 バスは結城市の結城苑つむぎ会館に着いた。土性館長のお話を伺って、より良いものを追求し続けた一千年の歴史の深さを感じ、つむぎの良さと高価なわけを悟つた。機織りの実演を見、展示された高級品にため息を漏らし値間が足りないようであつた。

コースの最終は栃木県益子町の窯元塚本製陶で陶器のできる迄の工程を見学する。人間国宝浜田庄司先生が、去る一月五日83才で亡くなられたのは痛惜の限りです。  
 南間荘で中食(釜めし)。帰路は東北自動車道の快適なドライブで、予定通り午後六時東京駅に到着した。

来年は直会旅行第十回目になりますので、特別企画をと考えています。コースの候補、御意見等を8月末迄にはがきでお知らせ下さい。今迄行つたのは別表の各地です。



第14期決算報告書 (自52. 1. 1 至52. 12. 31)

マーシャル方面遺族会

一般会計第15期予算

(自53. 1. 1 至53. 12. 31)

一般会計 収入の部

科 目	金 額
前期繰越正味資産	565,327
〃 預り金	507,200
〃 前受会費(53年分)	298,000
〃〃(53年以降分)	63,000
会費(過年度分)	227,000
会費(52年度分)	724,000
会費(53年以降分)	673,500
寄 附 金	1,861,658
受 取 利 息	87,614
雑 収 入	52,110
預 り 金	421,300
計	5,480,709

一般会計 資産内訳

摘 要	金 額
現 金	66,947
普通預金	554,291
定額貯金	1,200,000
振替貯金	41,769
計	1,863,007
後期繰越預り金	421,300
同前受会費	630,500
53年度分	630,500
54年度以降分	106,000
計	1,157,800
差引正味資産	705,207

収入の部

科 目	金 額
前期繰越正味資産	705,207
同 預り金	421,300
同 前受会費	736,500
会 費	1,000,000
寄 附 金	1,500,000
受 取 利 息	100,000
雑 収 入	50,000
計	4,513,007

一般会計 支出の部

科 目	金 額
慰 霊 費	57,720
運 営 費	1,545,950
刊 行 費	543,850
印 刷 費	38,523
通 信 費	112,437
事務所借用費	241,734
振替払込料	34,245
事務用品費	53,423
会 議 費	32,460
雑 費	52,160
退職金勘定繰入	100,000
預り金返戻	507,200
前受会費振替	298,000
後期繰越金	1,863,007
計	5,480,709

特別会計収支計算書

1. 収入の部	
前期繰越	1,500,000
2. 支出の部	0
3. 次期繰越	1,500,000
内 訳	
定額貯金	1,500,000
計	1,500,000

退職金勘定計算書

1. 収入の部	
前期繰越	100,000
一般会計より繰入	100,000
2. 支出の部	0
3. 次期繰越	200,000
内 訳	
定額貯金	200,000

支出の部

科 目	金 額
慰 霊 費	120,000
運 営 費	1,800,000
刊 行 費	700,000
印 刷 費	50,000
通 信 費	150,000
事務所借用費	300,000
振替払込料	50,000
事務用品費	70,000
会 議 費	100,000
雑 費	40,000
予 備 費	50,000
退職金勘定繰入	100,000
前期繰越預り金	421,300
次期繰越金	561,707
計	4,513,007

来 信 紹 介

1クエゼリン大里様夫妻より53・4・3  
 当地はこの二ヶ月雨がなく困って  
 いましたがこの頃少し降り出しました。  
 司令官から墓参OKの書面届いたと思  
 います。尚同氏は6月転任アメリカに  
 帰ります。二年毎にかかります。八月  
 皆様にお会い出来るのを楽しみにして  
 います。時間の少いのが残念です。今  
 年2月にミスター、ビーバーがクエゼ  
 リンに来られました浮田御夫妻によろ  
 しくとおっしゃっていました。  
 今年の墓参については次の方々が力  
 を入れて下さいました。

Calonel Van Netta. Lt.Colonel S-  
 hannon. Mr.Don Mc Alee. Mr.Fra-  
 nk Robinson.

2 埼玉 山下みつ様より 53・5・23  
 私は先日お友達15人と米国西海岸9  
 日間旅行の帰途ホノルルに二泊しまし  
 た。昭和50年現地墓参の時のホテルの  
 近くでした。この従業員で日本語の  
 上手な松村さんはクエゼリン基地に14  
 年も勤めた。日本戦死者の立派な墓を  
 建てるので、我を忘れて協力し感謝状  
 褒美をいただいたとか、浮田氏外数人  
 の日本人に会えて嬉しかったとか、徳  
 原氏夫人はハワイ放送局でアナウンサ  
 ーとして活躍している等懐し気に話さ  
 れたので聞いていたお友達も嬉しそう  
 に聞き入りました。海外旅行中予期も  
 しないこの出来事は感激と共に、英霊  
 の御蔭と深く感謝しました。



# 寄付者芳名

(三九九名)

本欄に掲載の会員各位は、すべて年度会費を完納の上の御寄付であり、本会運営上寄付するところ多く役員一同いつも感謝申し上げているところであります。

特に先年のオイル・ショック以来公共料金の上昇は、諸物価の暴騰を招き、本会も遂に二回の値上げのやむなきに至り53年度から年額二千円となつてしまいました。本部でも一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう努力いたしますので今後共御協力いただきたく御礼と共に御願ひ申します。

(昭和52年11月1日から昭和53年5月31日までに入金の分)

## 寄附額 篤志会員その他 芳名(敬称略)

三〇〇〇〇	ヤルト島会殿	姉	野沢さくえ	二〇〇〇	北上弥三郎	父	中井 幸夫	二〇〇〇	瀬法司房代	妹	鈴木 久子	二〇〇〇	長沼長一郎	父	塚原 ハナ	妻	木村 兼春	七〇〇〇	矢崎 寧之殿	妻	浦郷 久之殿	四〇〇〇	井上 義夫殿	兄	荒谷美佐男	二五〇〇	江藤 圭一殿	母	音喜多ミチヨ	一〇〇〇	木下 甫殿	姉	伝福 ちゑ	七〇〇〇	鈴木辰太郎殿	妻	木堂 テフ	五〇〇〇	高田源次郎殿	母	小杉 リサ	妻	星川 クマ	二〇〇〇	土屋 太郎殿	妻	高橋 吉正	二〇〇〇	十二 徳二殿	長男	高橋 吉正	一〇〇〇	高野 庄平殿	妻	平形せいこ	四〇〇〇	福田 吳子殿	弟	伊勢 照男	三〇〇〇	松平 永芳殿	兄	卯花要一郎	一〇〇〇	松本 孝子	妻	宮原 康	三〇〇〇	妻 尾崎 キエ	父	熊谷サタヨ	三〇〇〇	妻 金子 きよ	母	小室舜司郎	二〇〇〇	長女 伊藤 フジ	妹	小山きみ子	三〇〇〇	妻 尾崎 キエ	母	小室舜司郎	二〇〇〇	妻 金子 きよ	母	小室舜司郎
-------	--------	---	-------	------	-------	---	-------	------	-------	---	-------	------	-------	---	-------	---	-------	------	--------	---	--------	------	--------	---	-------	------	--------	---	--------	------	-------	---	-------	------	--------	---	-------	------	--------	---	-------	---	-------	------	--------	---	-------	------	--------	----	-------	------	--------	---	-------	------	--------	---	-------	------	--------	---	-------	------	-------	---	------	------	---------	---	-------	------	---------	---	-------	------	----------	---	-------	------	---------	---	-------	------	---------	---	-------

### 山形県

一〇〇〇 佐藤 アキ  
 妻 関山富一郎  
 妻 相馬 ツキ  
 妻 畠山 タカ

### 福島県

二〇〇〇 石井 正  
 妻 赤塚 正美  
 妻 渡辺 ミノ  
 妻 大野美津子  
 妻 丹野 アサ  
 妻 森谷 利雄

### 茨城県

三〇〇〇 若狭 明光  
 兄 堀内 誠一  
 兄 宮内 上  
 父 飯塚 美雄  
 父 遠峰 軍治  
 弟 安藤 啓次

### 栃木県

七〇〇〇 田村 信行  
 母 植木 モト  
 母 永井 清  
 母 増淵カオル  
 弟 菊地 彦巨  
 弟 田島 幸松  
 弟 田網 武夫

### 群馬県

一〇〇〇 小泉 文江  
 妻 浮田 信家  
 妻 荒井 福栄  
 妻 井上 賀雄  
 妻 大高 吉郎  
 妻 佐竹 エス

### 埼玉県

一〇〇〇 高橋 鎮夫  
 妻 黒川 誠  
 妻 国松ふみ江  
 妻 佐竹 エス  
 妻 大高 吉郎  
 妻 井上 賀雄

### 千葉県

八〇〇〇 毛利 志げ  
 妻 加瀬 良子  
 妻 星野千重子  
 妻 津久井艶子  
 妻 芳賀タツエ  
 妻 石川 きみ

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉

### 東京都

二〇〇〇 飯島浩一老  
 母 小泉 タケ  
 母 小泉 章  
 母 齊藤耕太郎  
 母 中村みさを  
 母 森 三吉







